

学校ワークショップ(アウトリーチ)

開館当初から力を入れている活動のひとつに学校への「アウトリーチ」があります。これは、幼稚園～高校まで県内各地の学校を美術館のスタッフが訪れ、アートに関するレクチャーやワークショップを行う、美術館の出張授業です。今年も国文祭期間中、

さらに24校を訪問し、約1,000人が絵の具や布に触れて楽しむワークショップを体験しました。これからは、子どもたちがワクワクするような美術体験を県内各地に届けたいと思っています。



●印は、2018年4月～11月末日に訪問した学校・園



国文祭 学校団体観覧

～11/22(木)

今年も、国民文化祭で、JAXAやJAMSTECなど国内の最先端の科学技術で作られた本物の機器や、最高峰の文化財が大分に集まりました。そこで、教育委員会と、(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団(大分県立美術館)はコラボレーションし、県内各地の学校を授業の一環として国民文化祭財団特別企画へ

招待しました。総観覧数は13,333人にも。なかには美術館に来るのが初めてという生徒もいましたが、皆自由な発想で鑑賞を楽しんでいました。



別府展 | 宇佐展 | 由布展

9/19(水)～28(金)

10/31(水)

11/15(木)～19(月)

毎年行っている活動のなかに、学校が1日限定の美術館になる「スクールミュージアム」、地域の美術館や文化施設とOPAMがコラボレーションする「地域美術館体験講座」、幼稚園や保育園の子どもたちがアートに触れる「子ども美術館」があります。どれも市町村教育委員会と連携し、別府展1,132人、宇佐展

251人、由布展547人が来場するなど、中学生や就学前の子ども、地域の方などが芸術を楽しみました。



大分県
教育委員会

大分県芸術文化
スポーツ振興財団

美術館を 教育に!

大分県芸術文化スポーツ振興財団では、大分県教育委員会と連携して、美術館を教育に活用する取り組みを、文化庁、文科省、「地域の色・自分の色」実行委員会等の関係機関からの助成、助言、協力によりすすめています。

シンガポール×姫島

姫島村とOPAMは県教育委員会、財団、大学等で構成される「地域の色・自分の色」実行委員会の協力により、小・中学生を対象に、「色」をテーマにした美術の授業を行ってきました。姫島で採れる石や土などで絵の具を作ったり、色を探ることで島の歴史や成り立ちを学んだり。美術に留まらない、色をテーマにした総合学習は世界的にも珍しく、シンガポールにも注目され、国際的な取り組みが始まっています。



シンガポール・ラッフルズ校でのワークショップ



シンガポール・ラッフルズ校から派遣された教員(中央)

特別講師による講演会

昨年スクールミュージアムを開催した安岐中学校では、「食と色彩」をテーマにOPAMが所蔵する福田平八郎の食べ物の絵を集め、描かれた食べ物を色の視点から鑑賞しました。この取り組みが地元や国で評価され、「食と色彩」をテーマにした学習を大分大学と一緒に科研費により続けることに。九州国立博物館の島谷館長による講演会も開かれ、東京国立博物館佐藤名誉館長、銭谷館長らも視察に訪れるなど全国的にも注目を集めています。



(前左より)佐藤名誉館長、島谷館長、銭谷館長
国東市立安岐中学校校長室にて